



校訓：至誠一貫 学校教育目標：自ら学び、自ら行動し、互いを認め合う生徒の育成

令和8年度西有田中学校だより

第15号(2026.10.21)

文責：中尾 恵子

挑戦・仲間

飽くなき“探究心”！！

NHK 総合(10/18・日 放送)「サンデースポーツ 特集、体操・男子日本代表 前田楓丞(まえだ ふうすけ)選手「すご技!鉄棒スペシャリスト 飽くなき“探究心”」の内容をまとめてみました。

経歴とエピソード

福岡県北九州市出身で26歳、ハヤブサS.C./リーフ体操クラブでコーチも兼任しています。

1. 体操との出会い～高校時代

4歳の頃に母親の勧めで地元の体操クラブに通い始め、高校3年時のインターハイ(全国高校総体)では種目別鉄棒で優勝して頭角を現す。

2. 大学進学と挫折・復帰

順天堂大学(体操の名門)に進学して全日本個人総合選手権の種目別鉄棒で2位に入るが、練習に対する価値観の違いや環境面から一度体操を離れ、大学を中退して実家へ戻る。その後「自分が戻るべき場所」として、再び体操への情熱を取り戻して競技へと復帰する。

3. 独自のアプローチと指導者との両立

体操クラブで子どもたちに指導をしながら自身の練習環境を確保し、工夫するという独自のスタイルを構築する。ただ、練習量を増やすのではなく、データや感覚を研ぎ澄ませて技術を極める「探究心」で世界レベルの技を磨き上げた。

4. 初の世界日本代表選出

5月のNHK杯で、H難度の「マラス」や連続大技を成功させて15.633点という世界最高水準の得点をマークする。これによって初の世界体操競技選手権(世界選手権)の日本代表に内定する。

同年7月にはプロ体操チーム「ハヤブサS.C.」にも加入して、さらなる飛躍を遂げている。

前田選手の練習姿勢とアスリート思考

★「やらされる練習」から「自ら問い続ける練習」へ★

名門・順天堂大学を中退し一度競技を離れた経験から、「なぜこの練習をするのか」「自分の体に何が必要か」を思考する重要性を痛感しました。ただ、練習量をこなすのではなく、技のメカニズムや力学を論理的に紐解くスタイルへ転換しました。

★子どもを教えることで得た「客観的視点」★

リーフ体操クラブで子どもたちを指導しながら練習する環境を選んだことで、技を言語化して教えるプロセスが自分の感覚整理につながっています。「人に伝えることで、自分のフォームの課題や感覚が客観視できる」という相乗効果を生み出しています。

★量より質と再現性の徹底追求★

鉄棒でH難度「マラス」などの超大技を安定させるため、手首の角度やバーを掴むタイミング、身体の引き上げ方など、極限の微調整を動画チェックやデータ分析で重ねています。一回一回の実施に対する集中力と再現性の高さを最優先にしています。

★制限された環境を言い訳にしない工夫★

恵まれた専用施設だけでなく、限られた時間や器具の環境下でも最大限のパフォーマンスを出す工夫を重ねてきました。与えられた環境で工夫し尽くす姿勢が本番のプレッシャー下でも揺らがない強さにつながっています。

前田選手の様々な試練の物語があつての、現在の活躍の姿です。

世界体操2026(第54回世界体操競技選手権大会)は、2026年10月17日(土)から10月25日(日)まで、オランダのロッテルダムで開催されます。日本の活躍が楽しみです！